



京都部会(第5回)

日 時: 2009年12月11日(金)18:00~20:00

場 所: 同志社大学 光塩館

【内容要旨】

- (1) 第5回目の京都部会は6名の参加者で開催された。まず初めに、経済教育ネットワークの篠原総一代表者から、入試問題検討プロジェクトに関するシンポジウムを来年3月20日(土)に東京で開催することと、今後のワークショップの予定についての予告があった。その後、西村から12月に福井大学で開催された経済教育ワークショップについての報告があった。
- (2) 引き続いて、篠原総一氏から三枝利多氏(東京目黒中央中学校)と経済広報センターが教材開発を進めている「住宅メーカー職場シミュレーション」(仮題)についての説明があった。これに対して、上西好悦氏(京都教育大学附属京都中学校)より、「住宅会社」という身近な例とイラストを用いて授業するのに、このような教材は好適だという意見が述べられた。
- (3) 次に、宮尾尊弘氏(筑波大)が国際教養大学での講義で実験された「囚人のジレンマと繰り返しゲーム」について、西村がその概要を紹介した。宮尾氏による実験の目的は、個人の利益と社会の利益が相反することを理解させることと、「しっぺ返し」戦略の有効性について気づかせることにあった。ゲーム自体は非常にシンプルで取り組みやすい印象を受けたが、ゲームの意義を現実の例に照らし合わせるケースが簡単に浮かんでこなかった。特に、企業を例にすると、カルテルが望ましいという結論にもなり兼ねないという意見もあった。逆に、OPECの原油カルテルが継続されなかった歴史的事実の説明に使うこともできるという指摘もあった。
- (4) 最後に、京都府立山城高等学校における篠原総一氏の講演について、本人からの説明があった。その要諦は、京都部会での懸案事項である『政治・経済』の教科書で「国際経済」の単元をどのように教えるかの問題提起であった。特に、為替レートが通貨と通貨の交換比率であることを理解させたうえで、外国為替取引の大半は国際間の資金取引に関わっているため、為替レートの決定には日本と外国の利子率および将来の為替レートの予想に依存していることを教える大切さを強調された。

(文責:西村理)

次回開催予定: 未定